米国ボストンでＳＳＨ海外研修を行いました！

≪概要≫

〇日　　程：１１月２日（日）～７日（金）４泊６日
〇参 加 者：２年生５名、１年生１４名

≪研修内容≫

０　決起集会：10/31(金)・出発：11/２(日)

出発日直前の放課後、決起集会を行いました。代表生徒が校長先生にむけて決意を述べた後、校長先生より激励のお言葉をいただきました。

出発日当日は教頭先生や保護者の方に見送られながら参加生徒全員元気にボストンへと出発することができました。

１　ボストン科学博物館：11/３(月)

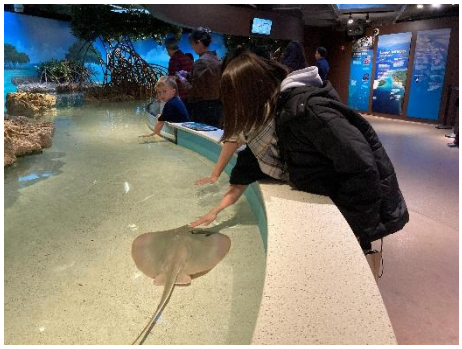
施設内の見学では、ほとんどの生徒が初めてのアメリカということもあり、英語表記に苦戦しながらも仲間と協力して展示説明を読み進めていました。館内では数学・工学・生物多様性など幅広い分野について、実際に手を動かしながら学べる体験型の展示が多く、生徒たちは興味をもって積極的に取り組んでいました。

【参加生徒の声】

・生物や工学いろいろな種類の学問を目と手でたのしめた。数学の確率の理論が目に見えたところに感動しました。
・実体験型の展示が多く、楽しみながら学べた。またその展示には MIT の技術が使われており、最先端の技術に触れることができた。

２　ニューイングランド水族館：11/３(月)

施設内を見学しました。展示方法や海洋保全に対する国ごとの考え方の相違点や共通点を知ることで、持続可能な海洋生態系への実現科学的な探究心をさらに深めることができました。



【参加生徒の声】

・日本で見たことのない魚があって、真ん中の大きな水槽はいろんな深さの魚が一度に見れて面白かった。

・水族館一つをとっても、日本とアメリカには違いがあることがわかった。一番驚いたのは、動物との距離がとても近いことだ。ペンギンをあんなに近くで見たのは人生で初めてでした。動物たちの様子がよくわかって面白かった。

３　ハーバード大学：11/４(火)

（１）研究員による講義

AI についてとＳＤＧｓについて、２人の研究員に講義をしていただきました。聞き取りやすい英語で分かりやすい例えを用いながら説明してくださり、生徒も興味を持って熱心に聞いていました。講義後の質疑応答では予定時間を超過するほどたくさん質問していました。

【参加生徒の声】

・いつも長文でやっているような話題を、コミュニケーションを交えた発表方式で触れることができて触れることができて面白いと思った。

・世界のトップの学生から講義を受け、質問して、答えを貰うことができた(しかも自分の研究に関わる部分について前向きな回答が得られたので良かった)。

（2）キャンパスツアー・ランチ交流会

ハーバード大学の学生４名に案内役として参加していただき、生徒は４～６人ずつの４グループに分かれてキャンパス内を見学しました。昼食は各グループで場所を決め、ハーバードの学生と共に食事をとりながら楽しく交流することができました。

講義や発表の場面とは異なり、日常的な場面で英語を使ってコミュニケーションを取る貴重な機会となっただけでなく、世界トップクラスの学生から生の声を聞くことができ、大変有意義な時間となりました。

【参加生徒の声】

・キャンパスツアーでは、簡単な英語で説明していただき、とても分かりやすかった。昼食の際には、ハーバード大学のサークルについてや、日本の大学と比べて授業はどのような感じか、また受験の時のことなどたくさん話していただいて、大学について深く学ぶことができ、とても貴重な時間となった。

・ネットで調べるだけではわからない学生ならではの視点でキャンパスを案内してもらえてまたとない貴重な経験になった。ハーバード大学はとても自然豊かで美しかった。とても親切に教えてもらって、質問も沢山できたので良かった。

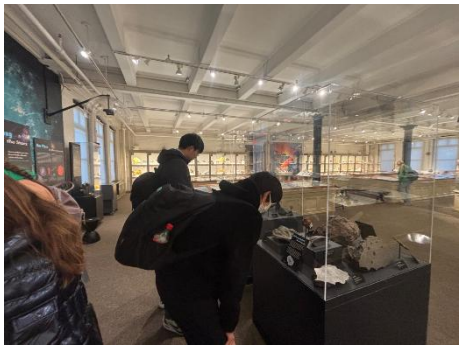
（3）ポスター発表

課題研究について英語でポスター発表を行いました。２年生は１人１テーマ、１年生は２人１テーマでハーバード大学の学生２人に向けて質疑応答を含め１５分間の発表を行いました。生徒たちは緊張している様子でしたが、事前指導で練習してきた成果を発揮することができている様子でした。発表後、ポスターの講評を聞きに行っている積極的な様子も見られました。

【参加生徒の声】
・想定した質問を上回る社会的な観点から質問してくれて新たな視点から自分の研究を見直すことができた
・実際に英語圏で暮らしていてしかもハーバード大学の学生の方に、自分の英語での発表を聞いていただくという、英語力向上には素晴らしい機会だった。
・楽しく発表するということを学べた。未熟な部分もあったけど、そこに気付けたから良かったなと思う。

（4）ハーバード自然史博物館。

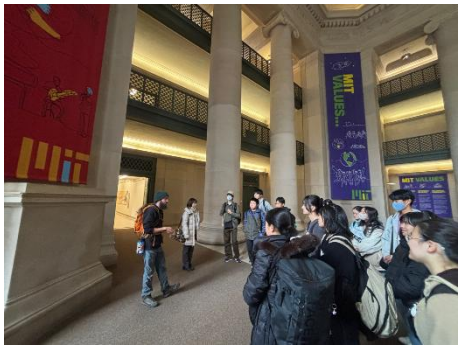
施設内を見学しました。ガラスでつくられた植物標本など、貴重な科学系実物体の見学を通して、知識の習得だけでなく展示・表現方法などの視点からも科学への興味・関心を高めることができました。

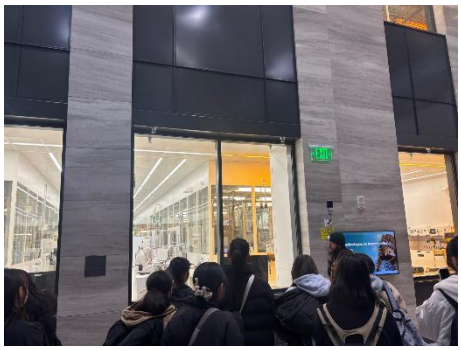


【参加生徒の声】
・小さい建物の中に自然史に関するものがこれでもかというほど詰め込まれていて圧倒された。ガラスの花は精巧すぎて本物に見えて逆に感動しにくいほどだった。
・ガイドの方に説明してもらって、展示してある鯨などについて知ることができたし、日本にはない生物も見れた。

4　マサチューセッツ工科大学：11/５(水)

マサチューセッツ工科大学の研究員に直接キャンパス内を案内していただきました。施設の歴史や研究内容だけでなく、入学方法や大学の授業の方針など、幅広い内容について生徒と交流しながら説明していただきました。説明はオールイングリッシュでしたが生徒は写真を撮影しながら熱心に説明を聞いていました。





【参加生徒の声】
・MIT の建物の説明だけでなく、入学方法とかも知ることができて、考えの幅が広がった。
・世界の最先端の研究設備を見れて雰囲気を味わえた。ハーバード大学との違いも感じれて良かった。
・ハーバードとはまた違う近代的なで芸術的な建物が多く、見ていて楽しかった。COOP（生協）では遊び心のある製品が沢山見られて面白かった。

５　自由散策：11/３（月）～５（水）の研修後

研修前後の空き時間はボストン市内やホテル近隣の自由散策を行いました。３人以上のグループで日没前の時間帯に行いました。初日は慣れない英語圏での生活に戸惑う様子も見られましたが、日に日に積極的に店員に質問や挨拶をしたり、道を尋ねたりしている生徒も増えていきました。

【参加生徒の声】

・とても綺麗な図書館や景色が赤煉瓦を基調にした newbury　street に自分たちの力で行けた。自由に海外で過ごせたことが楽しかった。

・現地で道とか分からないことは沢山あったけどその都度聞けて良かったと思う。とにかく自分で関わっていくのが大事だと思った。些細なことでも気軽に話してくれる人が多くて嬉しかったし、日本と違うと思った。

６　復路・振り返り：１１/６(木)-１１/７(金)

中部国際空港到着後、振り返りをして解散しました。今後は四高版科学の祭典や Mie　Science　Research Presentation 等の研究発表会で今回学んだことについて発表していきます。

≪今回の研修について～参加生徒の声～≫

・私が一番強く印象に残っているのはハーバード生との会話と講義です。私にとってハーバードのイメージが大きく変わりました。誰かの助けになりたいという目的のために、こんな小さな学校でも手を貸してくれて、しかも積極的に会話、指導をしようとしてくれるのはすごかったです。自信こそあまりつかなかったものの、応援されていることはよく伝わりました。また、講義では質問も頑張ってしようとはしたものの、なかなか上手い質問ができず悔しい思いをしました。ハーバード生も質問をすると聞いてくれているのだと思ってくれて嬉しそうにはしてくれるのですが、先輩たちのように良い質問だねと言ってもらえず悔しかったです。まだまだ単語が聞き取れなくて内容として細かいところまで把握できず質問が難しかったです。英語は毎日ボストンにオンラインを繋いで勉強したいくらい新鮮な英語で価値あるものだと思いました。引き続き単語を頑張って習得し、早く聞き取れるようになりたいです。

・今まであまり考えたことはなかったけど、「日本の三重県にいるだけで他の人よりも遅れをとっていること」「考えている以上に、チャンスは自分で取りに行かないとないこと」「四高は少し特殊だから、それに慣れすぎるといけないということ」「自分の強みと弱み」「家族と日本食特にお味噌汁のありがたさ」に気づきました。

・一番印象に残ったのは、大学の環境だ。日本の大学も素晴らしいけど、海外の大学はそれをはるかに凌駕しているなと感じた。キャンパスのこだわり具合や、力の入れどころ、本気で学び、世界に貢献したいと考える若者たちを全力でサポートする体制。全てがトップレベルで、建物や生徒たちから満ち溢れれる自信からもそういったオーラを感じた。自分が人々を助ける、という優しさや使命を感じられたことが一番印象に残った。

・日本では内面的に物事を考えたり、人と関わったりしていましたが、アメリカでは積極的に行動する機会が多くなったと思います。スーパーでの買い物、電車でたまたま乗り合わせた人など色んな場面で話しかけてくれる人がいて、嬉しかったし、会話できて楽しかったです。些細な事でも話しかけると優しく教えてくれるので、自分もそういう風に生きたいと思いました。日本では生き方を中々見つけられずにいましたが、勉強や技術的な面でない、人間的な生き方を見つけれたと思います。
そして家族から離れて、家族の存在をより感じました。上手く話せず落ち込んだ日も、LINE で励まし、支えてくれました。本当に準備・費用からお迎えまで支えてくれた家族には感謝しかないです。